

皆さんこんにちは。日本語の先生のりこです。

私はずいぶん昔のエピソード、シーズン1の、本当に最初の方のエピソードだったと思うんだけど、私が住んでいる北アイルランドのベルファストのタクシードライバーはとてもよく話す、おしゃべりだよって話をしたと思うんです。覚えていますか。今日もその話をしたいと思います。

先日ね、タクシーを乗る機会がありました。その日私は病院の予約があって、普通ならバスに乗って行くんだけど、雨が降っていた。バス停まで歩いて行くのが大変だったので、タクシーを呼んだんです。はい。そして、タクシーでバス停、バス停じゃない、あの、病院まで行ったんですね。

その時に、はい、このタクシードライバーさんはとってもよく喋ったんですよ。私は、何も話してないのに、彼から話しかけてきたんですね。最初に彼が言ったのは「寒くなってきたね」、「もう冬だね」という話でした。やっぱり季節の話ですよ。そしてその後には、彼は言ったんです。こう言ったんです。「仕事、今日久しぶりにやるんだ。4週間休んでたんだよ」。私は聞きました。「えっ、ホリデーだったんですか」。彼は言いました。「いやいや、コロナだったんです。コロナにかかって4週間仕事ができなかったんだ」。私はものすごくショックでした。「えー！」。

私の身の回りにコロナになった人は実はまだいません。ラッキーですね。でも、このタクシードライバーは最近までコロナだったんですね。そして、結構ひどくて入院しなければいけない状態にまでなって、もう何も食べられなくて、病院ですずっと寝たきりで、体重がものすごく落ちて、友達からは、「もうこいつは死ぬんじゃないか」と思われたぐらい重症だった、という話を私にずっとずっとしてくれたんです。いや、怖いですよ。笑うことできませんでしたよ。「えー？」って、「まじですか」。

その人はね、ワクチンもしていたんですよ。ね。奥さんもコロナになったそうなんですけれど、奥さんの症状はぜんぜん軽くて大丈夫で、すぐに治ったそうです。でも、この方はひどい状態になって病院に行かなきゃいけなかった。入院もしなければいけなかったそうなんです。

いや、ワクチンを受けててもそんなことがあるんだから、私はちょっとショックでした。怖かったですね。いやー、こんなことがあるんですね。私が乗ったタクシーのドライバーがそう話してくれました。

そしてね、彼は言ったんです。こういう、ま、「状況は悪いです。イギリスの状況はやっぱり冬になってコロナの感染者数がまた増えて、ね、悪くなってる。でも、ロックダウンの状況に戻りたくない」。彼はそう言いました。「ロックダウンの状況になったら嫌だ。もうあれは十分だ。だから、僕たちはコロナと一緒に生きていかなきゃいけない。そうすると、僕のようにコロナになってしまうこともある。でも、それはしかたがない。それは、そうなった時に、病院に行くしかない。治るのを待つしかない。コロナはまだ近くにある」。そんな話をものすごい勢いで熱く語ってくれたんですよ。やっぱりベルファストのタクシードライバーはおしゃべりでした。

そして、病院に着いて降りるときにね、あの、「気を付けてね」と私に、あの、あなたがね、私です。よ。「コロナにならないことを祈ってます、Fingers crossed」と言われたんです。

いやー、なんかめっちゃ怖くなりました。まね、私もほとんど出かけることはないけれども、最近レストランにも行ってみだし、週末時々カフェにも行くし、ね。あの、出かけることはありますよ。ずっ

とずっと24時間家にいるわけじゃない。ま、仕方がないことですよ。あの、コロナの時代はいつまで続くんでしょうか。そしてね、私は4週間も仕事ができなくて、久しぶりに仕事に復帰して、やっぱりタクシードライバーという仕事が好きで、ね。あの、今日はとても楽しい、いい気持ちがある。ね、って言ってくれたあのタクシードライバーのことを今考えながら話しています。元気になって良かったな。4週間ですよ。闘病生活が4週間。4週間も仕事ができなかった。いやー、彼が無事に、元気になって良かったなーって思ったんです。

はい、今日はここまでです。